

「基準 (Standards)」として定めたものを、ほぼそのまま採用しています。この「基準 (Standards)」は必ずしもプログラム開始時点で達成されているわけではないので「目標」に近い意味で使われていますが、日本語にする際に混乱を招くと言う指摘をいただき、本研究班では、「目標と基準」という表現を採用しました。

わが国において「目標」を短期間に実現するためには、現時点で既にある一定水準の登録精度と登録方法を確保できている地域がん登録を重点的に支援・整備し、次に、そこで得られた経験と知識を他の地域に広めて行くことが現実的であると思われます。平成 16～18 年を第 1 期として、現状に即した「第 1 期基準」を設定するために、現在 (本年 7 月) 地域がん登録全国協議会と本研究班との連名で、全都道府県に対して「地域がん登録の標準化と精度向上に関する事前調査」を行っています。この「第 1 期基準」をもとに、本研究班における支援対象地域を決定する予定です。

「目標と基準 2: がん登録に必要な項目に関して、収集・管理・提供が可能なこと」は地域がん登録の作業手順の標準化に直結します。取り扱う情報を、「標準登録票項目: 医療機関からの情報収集に必ず含まれる項目と区分」「標準データベース化要件定義: 登録票および死亡転写票、追跡票からの情報を収集し、保管・管理する必須の項目と区分、ならびにそのロジカルチェックと編集方法」「モニタリング項目: 地域がん登録から国 (国立がんセンター) に提供される情報の内容」の 3 段階に分けて、このうちの「標準登録票項目」「第 1 期基準モニタリング項目」を 4 月 21 日の打ち合わせ会にて採択しました。「第 1 期基準モニタリング項目」を選ぶ際には、「罹患数の把握に必要な情報の収集が可能であること」「罹患数の精度を検討するのに必要な情報の収集が可能であること」の 2 点を重視しました。その理由としては、わが国においてまず取り組むべき課題は、登録の完全性を改善することであり、そこに焦点をおいた必要最小限の項目を収集すべきと考えたからです。「標準データベース化要件定義」「目標モニタリング項目」については、順次検討していく予定です。

今後、本研究班の活動を進めるために、ワーキンググ

ループを課題別に構成して検討することを計画しています。各ワーキンググループにおける検討結果は、メーリングリストやホームページで順次公開する予定です。ワーキンググループを束ねる「地域がん登録標準化プロジェクト運営委員会」は、本研究班分担研究者の先生方 (味木和喜子、松田 徹、岡本直幸、早田みどり、片山博昭、三上春夫、金子 聡) を中心に構成し、すでに 5 月から月 2 回のペースで 7 施設を結んで電話会議を開いています。さらに、地域がん登録関係者が自由に参加できるメーリングリストを開設することも計画しています。地域がん登録の標準化と精度向上を短期間に達成するためには、情報の共有が鍵となります。関係者の方々の積極的な関与をお願いいたします。

## 標準登録システムの開発

片山 博昭  
放射線影響研究所情報技術部

はじめに

放射線影響研究所 (放影研) 情報技術部では、これまで広島市医師会腫瘍統計及び広島県腫瘍登録、長崎市及び長崎県腫瘍登録、それぞれの委託を受け、登録システムを構築、管理してきました。当初は大型汎用機を使用していたが、電算機処理、1993 年からはワークステーション上でリレーショナルデータベースを使用したクライアント・サーバーシステムを稼働させています。今年度の『がん罹患・死亡動向の実態把握の研究』班 (祖父江班) では標準化と精度向上が重点事項として挙げられています。放影研情報技術部としては、これまでに培ってきたシステム構築の経験を生かし、地域がん登録のための標準登録システム作りの面でこの研究班に参加させていただくことになりました。

開発方針

開発における基本方針として、 日常の業務・保守が簡単に出来ること。ほとんどの登録施設においては専従のコンピュータ技術者がいるとは思えませんので、システムを簡素化して扱いやすいものにし、 できるだけ安価なシステム構築を目指します。各登録施設とも限られ

た予算の中で業務を遂行されていることと思います。そのため、標準登録システムのハードウェアに要する費用を出来るだけ安価で済ませることができるようにも考えています。しかしながら、登録室の業務内容によってはより大きな規模でのシステム構成が必要な場合もあることも考えなければなりません。そのため、小規模な登録施設から大規模な登録施設まで幅広く使用されることを想定し、システム拡張が容易に行なえるシステム設計を行なう必要があるでしょう。

#### 機能の概要と提供の形態

標準登録システムは Windows 2003 サーバー上で、データベース PowerGres ( PostgreSQL 製品版 ) を稼働させます。ライセンスによる接続ユーザ数の制限はありませんが、同時接続クライアント数は最大 50 までとなっており、通常の登録業務であれば全く問題がないと考えています。標準システムでの推奨ハードウェアシステム ( ハードウェア価格 200 万円 ) は、ラック内に非常用電源、データベースサーバー、RAID ディスク装置、テープバックアップ装置、モニター、キーボード、マウスが組み込まれ、システムを安全に管理できるようになっています。この推奨システムはモデルとして放影研に設置していますので、見学を希望される方はご連絡下さい。標準登録システムは通常の PC の環境 ( Windows2000, XP ) でも動作しますので、現在使用中の機器に標準登録システムを導入することは十分可能と考えます。名前や住所に使用する漢字コードは JIS X 0213 を使用する予定です。このコードは JIS 第 1 水準から第 4 水準までをサポートしています。この漢字コードでサポートされない漢字は当然外字ということですが、標準登録システムでは外字はサポートしないことにする予定です。標準登録システムでは、これまで研究班で討議が重ねられ決定された標準登録票項目と、全国集計のための標準モニタリング項目をそれぞれ入力・出力としてサポートすることとなります。標準登録システムに関しての詳細は、これから決定されていきますが、各登録室で独自に開発されたもの、あるいは解析のための特別に付加されたものなどがある場合には、オプションという形で出来るだけ過去からの

ものをそのまま使用できるように組み込んでいきたいと思っています。もちろん、今後班での新たな決定が成された場合には、標準登録システムにはその都度モジュールの追加ということで、システム全体を変更することなく対処していく予定です。登録業務で使用するインターフェイス部分 ( ソフトウェア ) は、放影研で開発し実行モジュールの形式で配布します。最初だけは私どもがセットアップを行ないませんが、変更に伴うソフトウェアの更新はモジュール形式で配布し、各登録室で行なっていただくようになります。

#### 開発スケジュール

現在、放影研に開発用としての PC に PowerGres が組み込まれ、SQL ( データベース問い合わせ言語 ) のテストが行なわれています。10 月には推奨ハードウェアシステムに組み込まれ、標準登録システムとしての概要が完成、その後には試用を始める予定にしています。また、この間、祖父江班での標準化要件定義に関するワーキンググループでの討議も一段と進むことと思います。その決定を受けてその都度システムに修正を加えることとなりますが、来年 3 月に標準登録システムの提供を開始したいと考えています。

#### 今後の予定

地域がん登録室によっては、院内がん登録も行なっているところもあることや、地域の病院から登録票データを円滑に受け取ることを考えた場合、院内がん登録システムとの連携は重要な要素になってきます。広島でも昨年開始した広島県がん登録での届出票によるがん登録の登録数、精度を上げるためにも、広島県内の病院での院内がん登録との連携が重要になってきています。従って、我々としては標準登録システム構築後は院内がん登録システムの開発に着手する予定にしています。当然のことながら、現在使用されている国立がんセンターで開発された拠点病院の院内がん登録システムや大阪府立成人病センターで開発された院内がん登録システムとの連携が図れるように考えています。この標準システムを開発していく上で、皆様にはご協力を頂くことになるかと思いますがよろしくお願い致します。